読んで、仕事を楽しむ

# BOOKS for WORK 仕事と心にしみる本

人は何から学ぶか？　本、旅、人と言われます。
ということで、仕事について読むことのできる本を
人気書店の書店員さんに選んでいただきました。

青山ブックセンター
作田祥介さんセレクト

## 生き方について読むことのできる深いビジネス書

### 生き方や価値観とともに働き方がある

ビジネス書には仕事のスキル、人間関係、メンタル、歴史……などいろいろな切り口の本がある。何を読めばいいのか？　青山ブックセンター本店の作田祥介さんに尋ねてみた。生き方について読むことのできる、深いビジネス書が選ばれたようだ。

「どれも、仕事のスキルがすぐ身につくという本ではないですね。『自分をいかして生きる』は、仕事をしているときに自分が自分として関わっていると思える働き方をすすめているし、『なんにもないから知恵が出る』では、〝介護〟という言葉を作った会社の社長さん独自の価値観が語られます。自分の生き方や価値観の先に仕事と働き方があるという本です。

『わたしらしく働く！』は著者の若い頃のハードワークがすさまじい。だけど、すごく楽しそう。『だから、ぼくは農家をスターにする』の著者は仕事のモヤモヤを脱して、地震後の東北の一次産業を盛り上げるメディアを立ち上げました。仕事で悩んでいるなら、ぜひこの2冊を。仕事を通して自分を見つけて、楽しさも見つける、そのヒントがあると思います」

**Profile**
作田祥介。青山ブックセンター本店 ビジネス書担当。イベントの企画も。

#### 仕事のモヤモヤがあるなら

『だから、ぼくは農家をスターにする』
高橋博之著 CCCメディアハウス
新聞記者になる夢かなわず、東北でくすぶっていた著者。政治の世界などを経て、地震を機に東北の一次産業を取材したミニ新聞と食材をセットで届ける事業を立ち上げた。

#### 仕事の前に生き方

『自分をいかして生きる』
西村佳哲著 ちくま文庫
自分に合った働き方は、自分に合った生き方の上にある。「働き方研究家」の著者はそう教えてくれている。生き方をまず見つけよ。ビジネスのスキルや知識が意味を持つのは、そこから先なのだ。

#### 価値観が道を開く

『なんにもないから知恵が出る』
磯部成文×三宅秀道著
新潮社
「介護」という言葉を作り出した中小企業。社長は大学卒業後、大阪で丁稚奉公を経験。営業で培われた独自の価値観とビジネス理論を経済学者と語り合う。

#### 楽しいハードワーク

『わたしらしく働く！』
服部みれい著 マガジンハウス
冷え取りや自然農法、心と体についての記事を掲載し、女性に人気の「マーマーマガジン」。著者はその編集長。育児雑誌の編集者から独立し、出版社創設までの日々がつづられる。ハードワークが実に楽しそうだ。

シブヤ パブリッシング&ブックセラーズ
鈴木美波さんセレクト

## 仕事について考える時、ヒントになる本

### 視点をずらして仕事を見てみよう

ビジネス書以外で仕事について読めるのは、どんな本だろう？　そんな思いから、シブヤ パブリッシング&ブックセラーズの鈴木美波さんにセレクトをオーダー。仕事への新しい視点を授けてくれる4冊を紹介していただきました。

まず、仕事に疲れたり、悩んでいる時にすがりたくなる本からです。『人類が知っていることすべての短い歴史』は、文庫本の上下巻ですが、宇宙の137億年の歴史を一気に読むことができます。それだけ長い時間を一気に駆け抜けると、自分が悩んでいることがチッポケに思えてきます。この本を読んで、高校時代、ケンカをしている男子生徒に物理の先生が〝お前たちがもめていることなんて、アジア規模、ユーラシア大陸規模、地球規模で考えたらどれだけ小さなことか〟と諭していたのを思い出しました（笑）。仕事をときどきマクロな視点で見てみましょう。

『給料をあげてもらうために上司に近づく技術と方法』はビジネス書のようなタイトルですが、フランスの小説なんです。職場の人間関係の参考になるかもしれません。『大聖堂』の作者レイモンド・カーヴァーはさりげない優しさを書かせたらこの人と言いたくなる作家で、『給料を』とは違った意味で人間関係を学べるのでは。

もう1冊、『考えの整頓』は、こんなことは学校でも、会社でも教えてくれなかったと言いたくなるような本です。これも視点について教えてくれました。視点をずらして考えてみようということです。職場の常識のようなものを疑ってみることも必要かもしれません」

**Profile**
鈴木美波。シブヤパブリッシング&ブックセラーズ 店舗事業マネージャー。

#### 仕事も大変だけど

『大聖堂』
レイモンド・カーヴァー 著
中央公論新社
仕事は大変だが、周囲の人に優しく接したい。そう思うなら、レイモンド・カーヴァーの小説はオススメ。将来、部下をもった時の接し方のヒントも読み取れそう。村上春樹 訳

#### 自分の悩みなんて小さい

『人類が知っていることすべての短い歴史』
ビル・ブライソン著 新潮文庫
137億年の歴史をすごいスピード感で堪能できる文庫本上下2巻。仕事で悩んでいるときも、「自分の悩みなんて小さい」と思えるマクロな視点を身につけることができる。楡井浩一 訳

#### 会社は教えてくれない

『考えの整頓』
佐藤雅彦著 暮しの手帖社
クリエーティブ・ディレクターが伝授するのは視点のずらしかた。たとえば、それに基づいて仕事が進行している常識のようなもの。それを疑ってみよう。この「視点ずらし」、学校でも、会社でも教えてくれない。

#### 職場の人間関係に

『給料をあげてもらうために上司に近づく技術と方法』
ジョルジュ ペレック著 水声社
実験的な作風のフランスの小説。上司に取り入るプロセスが描かれることで、職場の人間関係のいびつな面やバカバカしさ、同時に重要性も浮かび上がってくる。桑田光平 訳